

たくましく  
心豊かな  
地球市民



瞳かがやく 附属松本中の子ら

# すずかけの森

令和6年3月14日（木）

信州大学教育学部  
附属松本中学校  
学校だより No. 6



## ご卒業おめでとうございます

寒さの厳しい冬が終わりを告げ、春のうららかな日差しが降りそそぐ中、明日は卒業証書授与式を迎えます。卒業生152名が巣立つ時、それは、新たな道へ大きな一歩を踏み出す時。附属中での学びを生かし、大いに活躍されることを願っています。13日（水）に行われた「3年生を送る会」では、1・2年生から心のこもったメッセージ、「変わらないもの」の合唱、応援を3年生に届けました。3年生は「正解」を立派に歌い上げ、附属中を後輩たちに託しました。今年度の附属中をともに創り上げてきたメンバーで、温かくやさしさあふれる時間を過ごすことができました。

明日15日（金）の卒業式をもって、本年度を締めくくります。感染症の影響を受けながらも、明るく元気に前向きに学校生活を創り上げていく本校生徒のたくましさを存分に発揮した一年でした。この間、保護者の皆様からいただいたご理解とご支援に心より感謝申し上げます。



1、2年生から3年生へ贈る合唱

## 副校長講話 「何ができるか、どうやったらできるかを求めながら それぞれの道を進んで」

副校長 中島 健

昨日の3年生を送る会、心温まるいい会でした。1、2年生からの3年生へ感謝の思い、3年生からの1、2年生への引き継ぎたい附中の魂、それぞれがひしひしと伝わってきました。また、今年もこの学び舎から3年生が巣立っていくんだなあというしみじみとした感慨もありました。先週、1、2年生が3年生を送る会のリハーサルをしているところに参加しました。歌「変わらないもの」の練習の時、学芸委員長が前回の集会の振り返りから、歌詞に寄せてこんな意見を紹介しました。

私はこの「変わらないもの」の歌詞に共感できるところが沢山あるので、自分のその歌詞を伝えたい先輩の顔を思い浮かべながら歌っていきたいと思う。さらにこう呼びかけました。

皆さんは、誰のことを思い浮かべながら歌っていますか？

途中を少し省きますが、こう続きます。今皆さんに、それぞれ伝えたい先輩の顔を思い浮かべてもらいましたが、その先輩に伝えたい想いと歌詞が重なるところってありますか？私は、「君がいたから頑張れた 支え合うこと分かち合うこと」のところの歌詞を大事にしたいなと思っています。なぜかという・・・と委員長さんの想いが続きました。この呼びかけに、1、2年生からは、自分はこの歌詞にこんな先輩への、こんな想いを重ねたい、という意見が幾つも出されました。

どうでしょうか。3年生の皆さん。こんな後輩である1、2年生からの「変わらないもの」に込めた想いは確かに届きましたか。そして、3年生から後輩へ託した「正解」のメッセージは1、2年生の皆さんに確かに伝わりましたね。昨日から今日にかけての今の皆さんの表情には、それまでとはまた違い、そして1年前とは明らかに違う、さらにたくましく力強いものを感じます。1年を終え、それぞれの心に何らかの学びの出来事が刻まれ、生徒会スローガンにある「進化～仲間と繋ぎ自ら挑む～」が具体化された事実がそうした表情になっているのではないのでしょうか。また、先程は各学年を代表した生徒が、それぞれ自分自身としっかり向き合い、この後期の半年、そしてこの一年間を振り返り、4月からの新しい生活に向けて抱負を語ってくれました。具体的なエピソードと共に自分を語り、素晴らしい発表でした。ありがとう。

さて、私は昨年の4月、令和5年度の学校生活がスタートするにあたり、「何ができるか、どうやったらできるか」を目指しながら過ごす1年間であってほしい、という話をしました。この1年間皆さん一人一人の中にどんな「何ができるか、どうやったらできるか」を目指す姿が生まれてきたのでしょうか。自分自身と向き合い、振り返ってほしいと思います。それでは、私が読ませてもらったお便りから幾つかを紹介します。まず、年明けの1月、新委員会での最初の各委員会の時間がありましたが、その時に生活記録に書かれた1年生の振り返りを紹介します。

○6時間目に各委員会で何ができそうか考える時間がありました。みんな今年務める委員会とちゃんと向き合っている様子でした。

書くときはちゃんと書いて、聞くときはちゃんと聞いて、良い話し合いになったと思います。（担当の先生も言っていたけれど、1年間これができているれば2年生になっても続けられるんじゃないかな、と思いました。）

次に、1、2年生で行っている音楽集会の振り返りから紹介します。

○もう春がやってきた。日は短いけれど、寒いけれど、もう『ラストソング』の時期なのだ。待ちわびた暖かい春の雰囲気になんか少し心が躍る一方で、これから始まろうとしている試みや、ますます多忙になる生活、そして3年生のいない学校生活に不安を感じる自分がいた。今まで当たり前と思っていた頼もしい先輩方がいなくなるその時に、当たり前ではなく、どれほど苦勞と努力を重ねてきたのだらうと申し訳なく思った。

続いて1学年集会で「学年協議会と各委員会の学年代表者の紹介」が行われ「先輩になるために」どのような活動ができそうか、学年代表者を中心に、委員会ごとに話し合いをしたそうです。今後、3月までに各委員会何か1つは活動を企画していくことになったそうですが、その振り返りから紹介します。

○今年初めて学年責任者になってみました。今日の話合いでは、委員の人たちの協力のおかげで時間内に立案することができました。感謝です！小さいことからでも「頼れる先輩」になるために頑張っていきたいです！

○新2年生として学年全体で話し合う初めての会でした。さっきまで入学したばかりで先輩に頼りまくっていたと思っていたのに、もう先輩になるなんて信じられません。今まで先輩にしてもらったことを、後輩にしてあげたいです！

さらに、1月26日に1・2年の生徒集会で、次年度の生徒会スローガンについての話し合いがありましたね。そこでの生徒会長への提案には、こんな言葉がありました。

○全校と役員との間でもっと円滑に意見共有が出来ると思ったからです。なのでまとめると、「一人一人が互いに近づき、思いやりの気持ちを持って行動できる姿」こんな姿で附中を満たしていきたいと思い、一つ目のキーワード「寄り添う」でした。クラスや個人といった小さなつながりも感じられるような附中を作りたいと思います。具体的な活動は、4月に行われる第一回生徒総会でお話させていただきます。ということで、二つ目のキーワード、「つながり」でした。生徒会活動で行う様々な企画に、一人一人が参加して完成させる。そんな達成感を得られることの楽しみを皆さんには味わってほしい。そんなふうに考えて、三つ目のキーワード、「楽しむ」を選びました。今紹介した「寄り添う・つながり・楽しむ」は、私たちが考えた「令和6年度生徒会のキーワード」です。

そして、そんな1、2年の生徒集会を終えての振り返りです。

○今日は、生徒集会がありました。今年度のスローガンについて考えたりしました。去年の生徒会の話なんですけど、僕はけっこう「進化」を感じることができました。友達とか、勉強とか、スポーツとか。

これまで追いかけてきた先輩の姿にあこがれをもち、自分たちもそれに続いていこうと活動に希望をもっている姿だと思います。附属松本中学校の生徒会活動は、このように皆さんたち生徒の想いが代々つながって行って、今の姿があるのですね。少ししか紹介できませんでしたが、皆さんが「何ができるか、どうやったらできるか」と、日々の学校生活を送っているからこそ生まれてきた姿であり、言葉であると嬉しく思いました。

#### 【皆さんへ贈る言葉】知らない自分を知る

今年度最後となる副校長講話です。今話してきたように、何ができるか、どうやったらできるかを目標として、取り組みを積み重ねている皆さんに、こんな話をしたいと思います。私自身が、なるほどなあと思ったものです。

突然ですが、皆さんに質問です。自分の顔で目尻から耳の穴までってどのくらい離れていると思いますか。長年つきあってきた自分の顔ですから、知らないはずはないと思います！あっ、まだ触ってはいけませんよ。自分の手の指の幅、何本分離れていると思いますか。では、①指2本分くらいだと思う人、手を挙げてみましょう。②指3本分くらいだと思う人は？③指4本分くらいだと思う人？④指5本、つまり手のひら全部だと思う人？意見が割れましたね。どれが正解でしょうか。いよいよ実際にやってみますよ。手を当ててみてください、どうぞ。「おやっ」びっくりしましたか。なんと指5本当てても、手のひらの横の長さを当てても、まだ足りません。つまり、耳の穴は、思ったよりずっと後ろにあったのです！皆さんが自分の顔を絵に描くとき、正面から描くことが多いのではないのでしょうか。この場合、目尻と耳はすぐ近くにあるように描くことになります。正面から見ると確かにそう見えます。でも、実際は違っていたのです。じゃあ、どのくらい離れているか。まずは、目尻と耳の穴までの長さを指で測ってみましょう。測った指の形をそのままにして、自分の両目に当ててみてください。その長さが、ちょうど自分の両目の幅と同じくらいになるはずですが。目尻と耳までの間は思ったより離れていて、両目の外には、実に広大な側面が存在するのです。この部分を人はあまり気づいていないのです。でも、「あなた」は知っていましたね！その「あなた」も知っていましたね！そのめがねを外して、折りたたむと！そうですね。だいたい両目のレンズの幅と、耳に掛ける二つの部分とが同じ長さに収まるでしょう。つまり、両目のレンズの幅と同じくらい耳までの距離があるということです。このことは、めがねをかけている人は日常の中で知っている・・・はずなのですが、どうだったでしょうか。

皆さんは、成長とともに日々たくさんの方のことを学習して、それを自分の知識として蓄えていきます。ただ、その中に、自分の顔という身近なもののすらそうだったように、本当は違うのに、あたかも「知っているつもり」になってしまっている・・・ということもあるのではないのでしょうか。自分も持っている知識や常識、そして自分の考えなどが、本当に真実か、間違っていないか、常に見つめ直し確かめていくことが大切ではないのでしょうか。学ぶということは、知識を得るということだけではなく、「それは真実なのか」と常に問いをもち、現実を見つめ追究し、よりよいものに更新できることではないのでしょうか。

1、2年生は、残された中学校生活において、自分の中で「それは真実なのか」と常に問いをもち続けてほしいと思います。4月からは皆さんがこの学校を創っていくんですね。大丈夫です。期待しています。3年生、これまでの皆さんのリーダーシップに敬意と感謝の想いでいっぱいです。この1年間、いやコロナ禍で大変な思いをしたこの3年間、本当によく頑張ってくれました。昨日の学年合唱、私にとって皆さんが本校において、常に現実を見つめ追究し、よりよいものに更新してきた姿の一つの表れとして受け取りました。明日それぞれの道に向かって巣立っていきます。まさに、母校附属松本中学校を飛び出し、自分の道を自分の足で歩み出すときです。これからも、自信をもってそれぞれの道を進んでください。

今年度もよく頑張りました。1・2年生全員の進級と、3年生全員の卒業を認めます。1、2年生は明日から、3年生は明後日から春休みです。健康や事故に十分気を付けながら良い令和5年度のまとめをし、新年度である令和6年度の準備をしましょう。

連絡とお願いです。明日の卒業証書授与式は、卒業生と保護者、教職員で挙げていただきます。式場に在校生が実際に「居る」ことはできません。しかし、今年度も3年生と共に全校で様々な出来事を共有し、物事を重ね、進化を経験してきた在校生は、式の当日もこの学び舎で、卒業生と共に「在る」ことができます。対面して互いにお祝いの想いを伝えあうことはできませんが、地球市民として力強く未来に踏み出す3年生が卒業生として、確かな歩みを進める門出の日を、みんなで祝福しましょう。

以上で、今年度最後の講話を終わります。1年間、しっかり聞いてくれてありがとう。おわります。

#### 卒業記念品

